



本川根中学校2年
すずき 綾馬

今回の研修で、僕は今まで身につけた英語がどれくらい通じるかチャレンジしたいと思いました。持ち前の明るさと当たって砕ける精神で、積極的にホストファミリーや学校の先生に英語で話しました。もちろん言葉が思い通りに伝わらない時もありましたが、ホストファミリーは僕が理解しやすい簡単な単語を使っ

て話してくれました。そして「言葉」だけでなく「心」で気持ちや伝えられることを実感しました。このような貴重な体験を通し、カナダや他の国の人々と交流ができるためには、もっと英語を身につけることが必要だと感じました。温かく接してくれたホストファミリーとこのような機会を与えて下さった町の方々に感謝しています。



本川根中学校2年
はっとり おう



本川根中学校2年
ほりい と

僕は、カナダ研修でいろいろなことを感じてきました。カナダでは優しい人たちがたくさんいました。特に、ホストファミリーは、私に優しくしてくれました。メトロタウンなどいろいろな町にショッピングに連れて行ってくれて、とても楽しかったです。一緒に一週間過ごしていると、本当の家族の一員になったように感じました。二つ目に感じたことは、カナダと日本の文化の違いです。日本では食事をするとき箸を使っているのですが、カナダではフォークやナイフを使って食べます。そしてカナダでは食事が豪華でした。建物も町並みもとてもきれいでおどろきました。私は、カナダ研修を通して、たくさんのことを感じる事ができ、とてもよかったです。



本川根中学校2年
みやじま 洸樹



本川根中学校2年
やました ゆき

僕は、ホストファミリーとのコミュニケーションに力を入れました。初めてホストファミリーと会ったとき「上手に会話ができるかな」と不安な気持ちがありました。一日目、5歳と7歳の男の子がたくさんしゃべりかけてくれました。僕は「子供だから適当に返事をすればいいや」と思い、曖昧な返事をしてしまいました。すると、男の子たちは困ってしまいました。この出来事から、僕は「言葉が分からなくても、積極的に会話しなければ」と思いました。それから、分からないことを聞き返し、積極的に話しました。すると、男の子たちも笑顔で話してくれて、うれしかったです。これから、どんな人に対しても、笑顔で積極的に会話をしていきます。

私は、本場の英語に触れるという目標を持ち、ホストファミリーに積極的に話しかけ、たくさんの英語を使うことができました。川根本町とカナダの違いに、知ることができました。

この体験で、一番心に残ったことは、ホストファミリーに、しっかりと気持ちを伝えられたことです。初めは、何も言えず、ホストファミリーの方に、気持ちを伝えられませんでした。しかし、カナダで過ごしていくうちに、気持ちをしっかりと伝え、積極的に話せるようになりました。

今回、たくさんの事を体験し、英語をより身近に感じ、より興味を持つことができました。このような機会をつくっていただき、ありがとうございます。

HighLight

今月の
注目

2

鹿ん舞の「ソーリャー、ウンハイ」と叫んで疾走する姿に声援が送られる

「徳山の盆踊」を盛大に奉納 大勢の観客でにぎわう

徳山古典芸能保存会は8月15日、夏の風物詩である国指定重要無形民俗文化財「徳山の盆踊」を披露した。16演目が披露され、演目の合間には花火が打ち上げられるなど、詰め掛けた大勢の観客から歓声が上がった。



徳

山地区の夏の恒例行事「徳山の盆踊」が、同地区の浅間神社にて奉納されました。

徳山古典芸能保存会会員と町内の小中学生が「鹿ん舞」「ピーヤイ」「狂言」の3種類の舞を交互に披露し、訪れた見物客を魅了しました。

古歌舞伎の初期の仕組みを伝承し動物仮想の風流が添えられていることから、地域的特色に富んでいるとして高い評価を受ける「徳山の盆踊」。昭和63年に国から重要無形民俗文化財の指定を受けました。

鹿やひよっとこの面をつけた少年が、お囃子に合わせて境内を所狭しと舞い踊る「鹿ん舞」。作物を荒らす獣を追い払う農民の姿が由来とされています。今年は町内の男子中学生21人が演じました。

浴衣姿の女子小中学生が小唄に合わせて優雅に舞う「ピーヤイ」と、成人男子による狂言も、境内に設けられた舞台の上で練り広げられました。

貴重な伝統芸能を継承していく

徳山古典芸能保存会会長の山下忠之さん(70歳)は「盆踊りに携わる皆さんの努力や協力のおかげでこの日を迎えることができ感謝している。今後も継承していくには指導者・伝承者の育成が大切だと考えている。地元のお祭りとして盛り上げていきたい」と話しました。



鹿ん舞



ピーヤイ



狂言

▲牡鹿役の石川直紀君

(中川根中3年)

「一番注目してもらいたい場面はジャンプと掛け声です。伝統に恥じないように、練習の成果を発揮して頑張りたい」と本番前に意気込みを話してくれました。



▲鹿ん舞の後方であわいらしく舞う姿に温かい声援が送られました！
(西村桜ちゃん17歳)



▲仕掛け花火を見ようと人だかりができました



▲ときどきの池から撮影